

大学教育におけるラジオ番組利用の教育効果

広島大学学校教育学部 教授 石井 眞 治

広島大学学校教育学部 助教授 若尾 裕

広島大学学校教育研究科修士過程 藤原 靖之

1. はじめに

本報告書は、広島大学学校教育学部での総合講義演習の実施の際に、以前に広島大学公開講座で作成されたラジオ番組がどのように有効的に活用ができるか否かを検討した評価結果である。

大学教育は社会が大学に要請する期待の変化、大学教育を受ける学生の特性の変化、学生数の増加等種々の時代変化を受け、いろいろの側面でその変容が求められている。こうした変容が求められている側面の一つに、教育テーマとその教育形態があげられる。

広島大学学校教育学部はこうした点を鑑み、総合講義演習という教育科目を設け、その一つとして「性教育」を導入している。この「性」の問題は人生にとって重要なテーマであり、大学等の高等教育において知見を深める必要があるとの認識はありながらも、その実施はなされてこなかった。したがって、こうしたテーマに関する研究者や専門家も少なく、これを大学教育の科目として導入する際の障害となっていた。本学部ではこうした困難点を克服し、かつ大学教育としての質を維持するため、以前に広島大学公開講座で性に関しての専門家により作成されたラジオ番組を授業の一部に導入し、その教育的効果を検討した。

広島大学学校教育学部の集中講義（テーマ：性教育）において、ラジオによる実験授業を実施し、調査1では、一般的なラジオによる講義に対する意見・感想を調査した。続いて調査2では調査1に基づき、「性教育」というテーマのもとでの、①授業の受講による学習効果、②ラジオによる授業の教育効果を検討した。

2. 調査1

大学の授業におけるラジオ利用に関する受講生の態度

方 法

調査年月日：1989年10月

被調査者：広島大学学校教育学部3年生64名（男14名、女50名）

手続き：学校教育学部の授業において、講義者の口頭による通常の講義形態に加え、同じテーマに関するラジオ番組を利用する授業形態を実施した後、ラジオによる講義に対する意見・感想を自由記述させた。

表1 意見の種類と内容及び出現数

意見の種類	意見項目	出現数
肯定的意見	新鮮、おもしろい、楽しい、興味深い	11(9.4)
	集中できる、疲れない、あきない、真剣に聞ける	4(3.4)
	多くのことを考えられる、情報が集められる	2(1.7)
	印象に残りやすい、共感を持ちやすい、 迫力のある人は説得力がある	3(2.6)
	聞きやすい、映像がないぶん話が巧み	2(1.7)
中間的意見	おもしろい内容ならどの媒体でも同じ	7(6.0)
否定的意見	一方的、受身、人と人のふれ合いがない、 肉声がいい	9(7.7)
	不自然、落ち着かない、不安、 どこを見ればいいのかわからない	7(6.0)
	集中力が続かない、聞き流す、聞く意欲がわからない 眠くなる、退屈、興味を失いやすい	44(37.6)
	テキストが欲しい、物足りない	3(2.6)
	聞き取りにくい	17(14.5)
	視覚的な方がよい	8(6.8)
	計	117

注) () は全体の8%を表す。

結果

ラジオによる講義に対する自由記述による意見・感想を分析した結果、集計された全回答数は117であった。これらの意見を肯定的意見、中間的意見、否定的意見に分類し、それぞれの意見項目をまとめて、出現数と全体の割合を算出したものが表1である。

表1から分かるように、ラジオ番組による授業に関して肯定的な意見は全体の18.8%であった。これに対し、否定的な意見は全体の75.2%であり、ラジオによる講義形態を否定的に受け止めていることが明らかになった。さらに詳細に検討してみると、否定的意見では「集中力が続かない」「聞き流す」「聞く意欲がわからない」「眠くなる」「退屈」「興味を失いやすい」(37.6%)といった、授業への集中力の問題点を指摘する意見が最も多く、次いで「テキストが欲しい」「物足りない」(14.5%)といった、情報の不足を指摘する意見が多くあげられていた。さらに、「一方的」「受身」「人と人のふれ合いがない」「肉声がいい」(7.7%)といった、一方的な情報のうけとりという点が指摘されていた。また「視覚的な方がよい」(6.8%)、「不自然」「落ち着かない」「不安」「どこを見ればいいのかわからない」(6.0%)等の、視覚情報の不足からくる不安も指摘されていた。

これとは対照的に肯定的意見のなかでは、「おもしろい」「興味深い」「楽しい」「新鮮」(9.4%)といった、おもしろさ、興味深さを指摘した意見が最も多く、次いで「集中できる」「疲れない」「あきない」「真剣に聞ける」(3.4%)といった集中力の持続に関する意見があがっていた。また、小数意見ではあるが、「印象に残りやすい」「共感を持ちやすい」「迫力のある人は説得力がある」(2.6%)、「聞きやすい」「映像がないぶん話が巧み」(2.6%)といった話の技術に

関する意見や、「多くのことを考えられる」「多くの情報が集められる」(2.6%)といった情報面も、ラジオによる講義の肯定的意見としてあげられていた。中間的意見としては、「おもしろい内容ならどの媒体でも同じ」(6.0%)という内容重視の意見があげられていた。

これらの結果から、今回の受講生がこうした大学でのラジオ番組利用について不慣れなためか否定的であることが伺えた。

3. 調査2

大学の授業におけるラジオ利用の教育的効果

調査1の結果をもとに、新たな質問項目を作成し、「性教育」というテーマにおいての、ラジオ番組による講義の教育効果を検討した。

方 法

調査年月日：講義前調査：1990年10月11日、講義後調査：1990年10月17日

被調査者：広島大学学校教育学部3年生59名（男5名、女54名）

手続き：学校教育学部の授業において、表2に示す内容で、講義者の口頭による通常形態の講義に加え、ラジオ番組を使う形態の授業を実施した。

表2 1990年度総合講義演習「男性・女性・ライフスタイル」講義内容

講義日	時 限	講 義 内 容
10月11日(木)	1.2 限	集中講義全体のガイダンスと講義中に読んで欲しい本の紹介。
	3.4 及び 5.6 限	女性学と家族関係論から性別役割分業と性差別について考える。
10月12日(金)	1.2 及び 3.4 限	性交、妊娠、出産についての教育映画上映を含む性教育。 中絶、避妊、若者の性、社会における性の歪みなど広範な問題について触れる。
	5.6 及び 7.8 限	女子体育の観点から事例をあげ、ジェンダーとしての性役割を考える。
10月15日(月)	1.2 及び 3.4 限	心理学からみた性。
	5.6 及び 7.8 限	性教育映画「子どもたちへ」のビデオ上映及びディスカッション。
10月16日(火)	1.2 及び 3.4 限	ラジオ番組「性」による講義。
10月17日(水)	1.2 及び 3.4 限	性及びセクシュアリティについての包括的なフリー・トーキング及び講義全体のまとめ。

まず、①授業の受講による学習効果を検討するため、講義開始直前と講義終了後に質問紙による調査を行い、比較検討した。さらに、②講義終了後の調査において、ラジオ形態・通常形態それぞれの講義形態についての印象を比較検討した。

質問紙：講義前調査と講義後調査の2つからなっていた。講義前調査は、(1)性についてのイメージ、(2)各意見項目に対する賛成度、(3)自信を持って性教育できる内容、(4)性教育を行うにふさわしい人、を尋ねるものであった。

まず、(1)「性についてのイメージ」に関しては、「悪いー良い」「愉快的ー不愉快的」「激しいー穏やかな」「きれいなーきたない」「小さいー大きい」「好きなー嫌いな」「のろいーすばやい」「狭いー広い」「優しいー恐い」「気持ちのよいー気持ち悪い」「活動的なー不活発な」「消極的なー積極的な」の12形容詞対に関して、7段階SD法による評定をさせ、各項目の評定を評定得点とした。

次に、(2)各意見項目に対する賛成度に関しては、「性行為はいやらしくない」「性行為は快楽のためではない」「日本人の性は道徳から開放されるべき」「エイズは性病であり、法的規制がなされるべき」「結婚したら別れるべきではない」「愛のないセックスで満足はえられない」「結婚まで性的関係はもたないのがよい」「異性がいる前でのわい談は避けるべきである」「マスターベーションは抑制されるべき習慣である」の9つの意見項目に対して、「1ー非常に賛成、から5ー非常に反対」の5段階で賛成度を評定させ、各意見の評定値を賛成度得点とした。(3)「自信を持って性教育できる内容」に関しては、「妊娠・出産」「避妊・中絶」「性病」「エイズ」「性交」「家族計画」「遺伝」「性欲」「性道徳」「自信を持って教えられるものはない」の10項目について当てはまるもの全てを挙げさせた。(4)「性教育を行うのにふさわしい人」は、「子供に対する性教育はだれが行うのが一番よいと思うか」という質問に対して、「同性の先輩・友人」「異性の先輩・友人」「学校の先生」「両親」「兄弟・姉妹」「医師・保健婦・助産婦」「週刊誌・雑誌・テレビのマスコミ」「その他」の8項目の中から1つを選択させた。講義後調査は、講義前調査に加え、(5)形態別にみた授業の印象、(6)a.好ましい講義形態 b.その理由、の質問項目を設けた。まず、(5)形態別にみた授業の印象に関しては、ラジオ形態・通常形態それぞれについて、授業の印象を「おもしろいーおもしろくない」「新鮮なー新鮮でない」「印象の深いー印象の薄い」「積極的ー消極的」「集中しやすいー集中しにくい」「能動的ー受動的」「わかりやすいーわかりにくい」「自然なー不自然な」「緊張したー弛緩した」「好きなー嫌いな」の10形容詞対に関して、5段階SD法による評定をさせた。続いて(6)a.「講義形態としてラジオ形態・通常形態のいずれがよいか」を二者択一で問い、b.それぞれに対する理由は、調査1の自由記述の結果にもとづき選択肢をもうけた。ラジオ形態を選択した理由としては、「自分の考えをまとめやすい」「別のことをしながら聞ける」「緊張しないで聞ける」「話だけのぶん内容が充実している」「想像力が豊かになる」「集中して聞ける」「その他」の7項目、通常形態を選択した理由としては、「ノートがとりやすい」「後で質問ができる」「落ち着いて聞ける」「板書を見て内容がつかめる」「繰り返し説明してくれる」「視覚的情報が得られる」「その他」の7項目を選択肢としてあげ、当てはまる順に1～3の順位をつけさせた。

結果

本調査の目的にもとづき、第1に講義を受講した学習効果の検討を行った。

①授業の受講による学習効果の検討

(1) 「性」についてのイメージ

講義前と講義後の「性」についての各評定項目の得点の平均値を表3に示した(図1)。

表3 講義前・後でみた性についてのイメージの各評定項目の平均値とSD

性についてのイメージ	講義前	講義後
	平均値 (SD)	平均値 (SD)
1 悪い—5 良い	3.44(0.67)	3.90(0.68)
1 愉快的な—5 不愉快的な	2.86(0.54)	2.41(0.72)
1 激しい—5 穏やかな	2.75(0.65)	2.73(0.73)
1 きれいな—5 きたない	2.90(0.51)	2.41(0.64)
1 小さい—5 大きい	3.40(0.62)	3.80(0.82)
1 好きな—5 嫌いな	2.83(0.56)	2.31(0.72)
1 のろい—5 すばやい	3.02(0.34)	3.08(0.42)
1 狭い—5 広い	3.44(0.81)	3.90(0.88)
1 やさしい—5 恐い	2.86(0.91)	2.41(0.81)
1 気持ちのよい—5 気持ち悪い	2.68(0.62)	2.25(0.65)
1 活動的な—5 不活発な	2.34(0.60)	2.03(0.71)
1 消極的な—5 積極的な	3.34(0.70)	3.92(0.81)

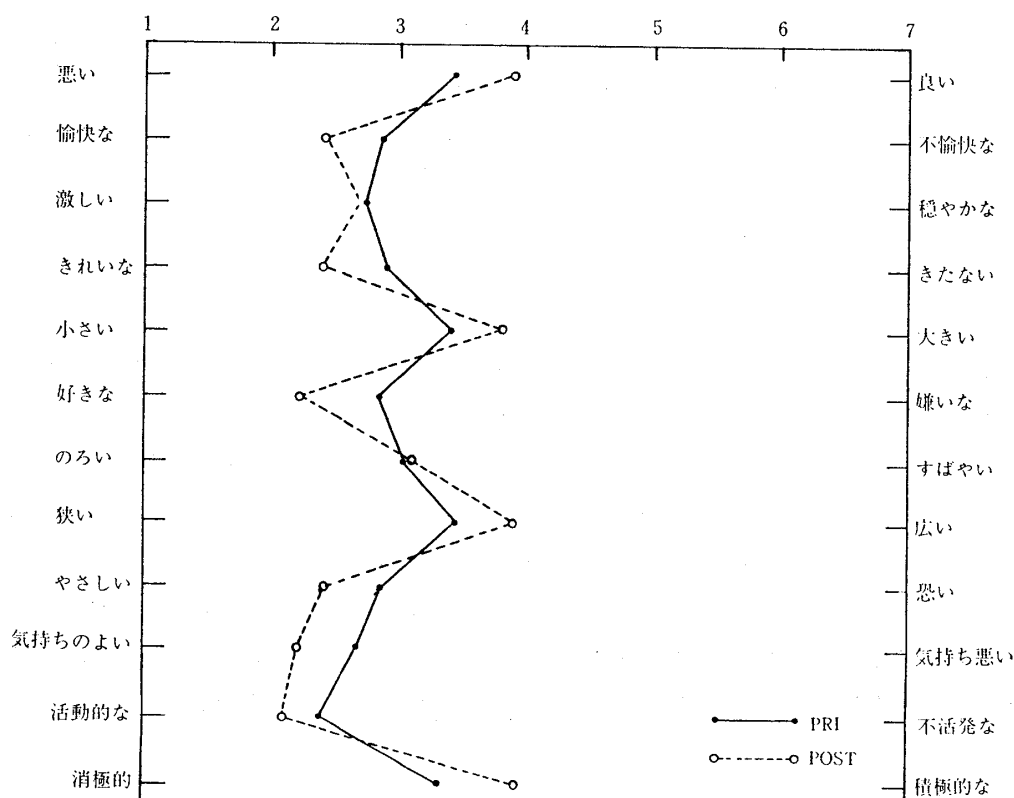


図1 講義の前後でみた「性に対するイメージ」の変化

図1より、性に対するイメージは今回の性に関する授業を受講することにより、「悪いー良い」に関しては「良い」方向へ、「愉快的ー不愉快的」に関しては「愉快的」方向へ、「きれいなーきたない」に関しては「きれいな」方向へ、「小さいー大きい」に関しては「大きい」方向へ、「好きなー嫌いな」に関しては「好きな」方向へ、「狭いー広い」に関しては「広い」方向へ、「優しいー怖い」に関しては「優しい」方向へ、「気持ちのよいー気持ち悪い」に関しては「気持ちのよい」方向へ、「活動的なー不活発な」に関しては「活動的な」方向へ、「消極的なー積極的な」に関しては「積極的な」方向へ変化していた。「激しいー穏やかな」「のろいーすばやい」の項目以外は、ポジティブな方向に変化していることが明らかである。さらに詳細に検討するために、男女別にみたものを、図2には、男性の変化を図3には女性のものを示した。

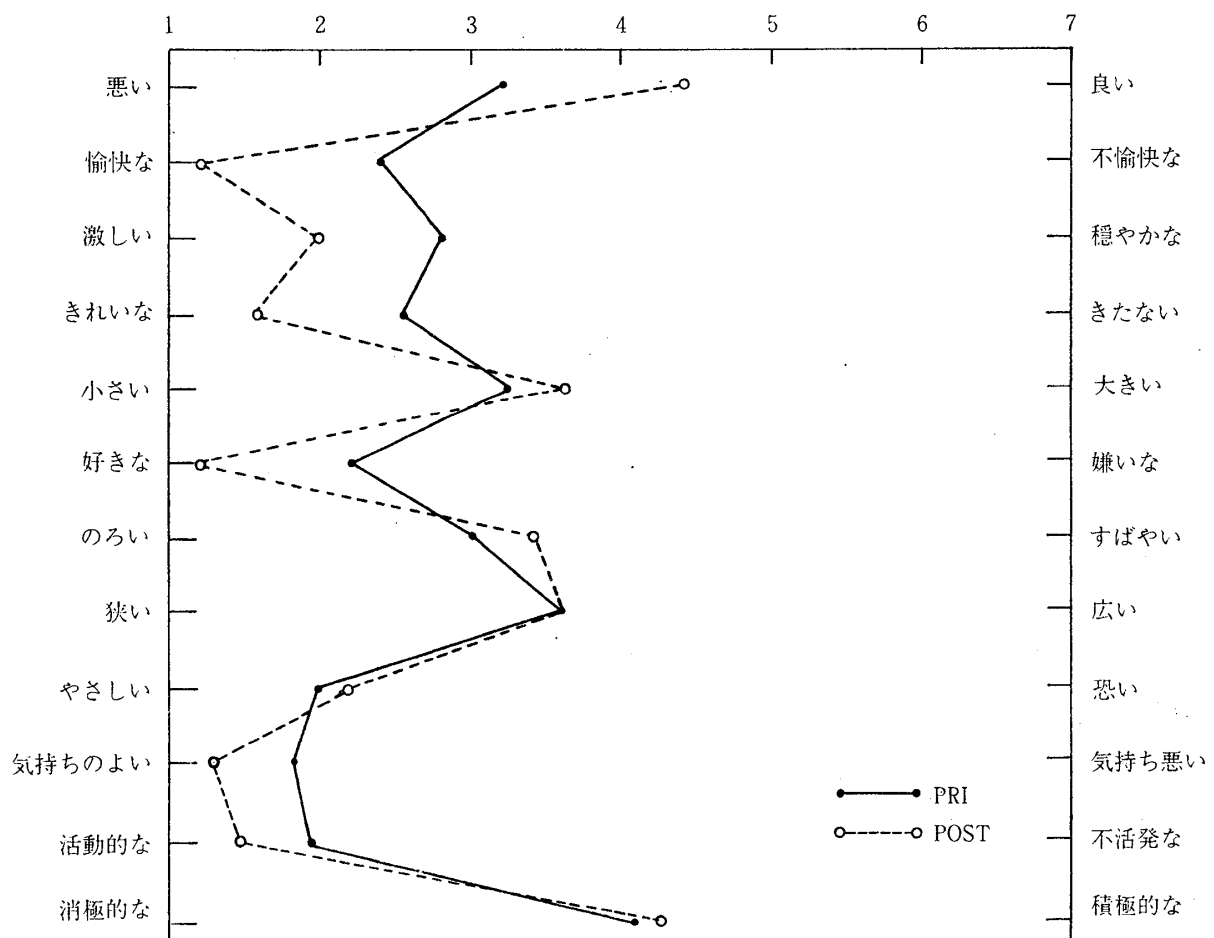


図2 男性の「性に対するイメージの変化」

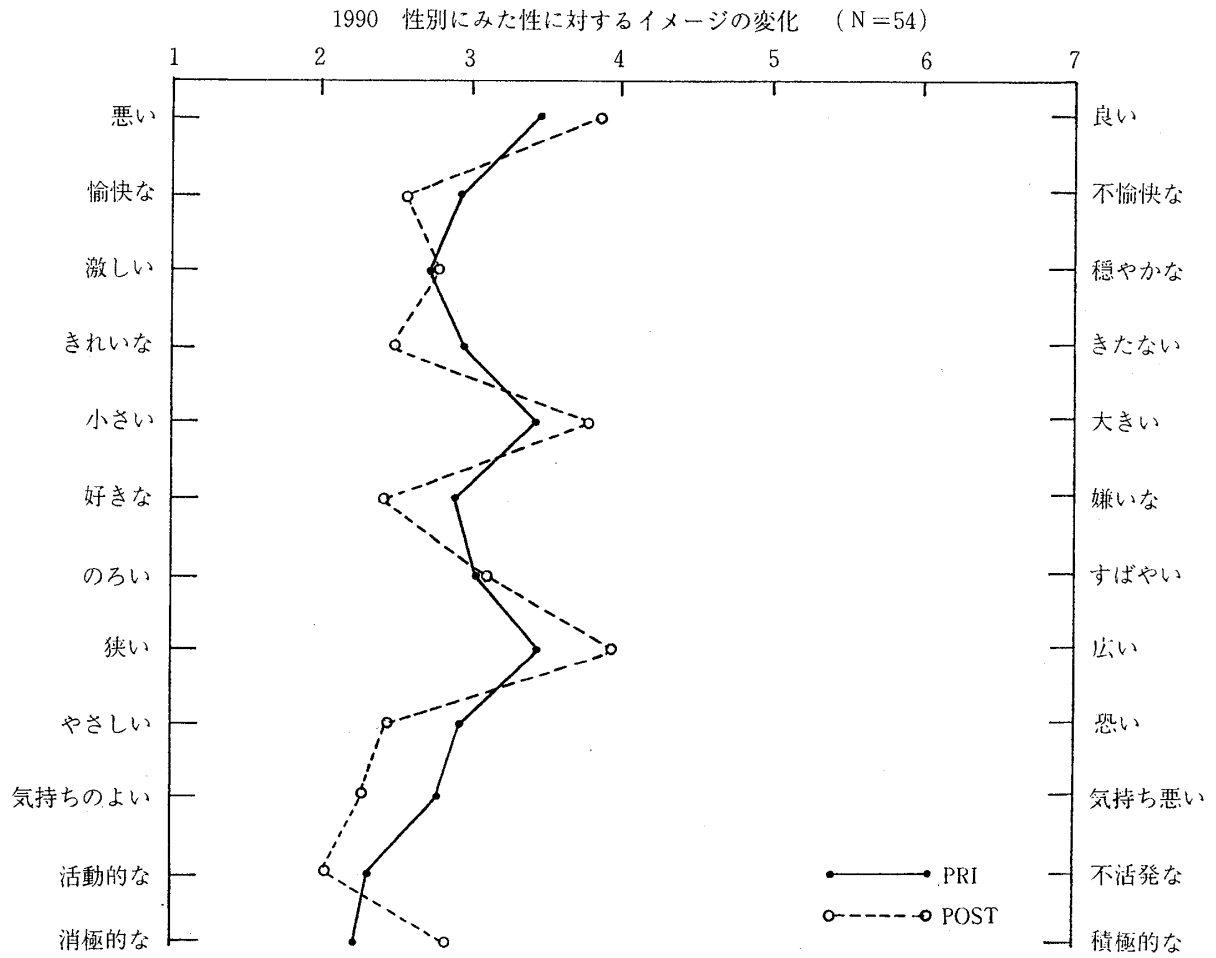


図3 女性の「性に対するイメージの変化」

図2・3より、男女とも性に対するイメージに大きな差はないが、男性の方が授業による性に対するイメージの変化が大きく、「激しい—穏やかな」の項目に関して「激しい」方向にイメージの変化がみられた。

(2) 各意見項目に対する賛成度

男女ごとにみた、講義前と講義後の、各意見に対する賛成度得点の平均値を表4に示した(図4)。

表4 男女ごとにみた、講義前・後の各意見に対する賛成度得点の平均値

○性行為はいやらしくない

	PRI	POST
男	1.40	1.40
女	2.00	1.63
全体	1.95	1.61

○愛のないセックスで満足はえられない

	PRI	POST
男	1.80	1.00
女	2.09	2.06
全体	2.07	1.97

○性行為は快樂のためではない

	PRI	POST
男	4.20	4.20
女	3.20	4.04
全体	3.29	4.05

○結婚まで性的関係はもたないのがよい

	PRI	POST
男	3.80	3.80
女	3.30	3.72
全体	3.34	3.73

○日本人の性は道徳から開放されるべき

	PRI	POST
男	3.00	1.80
女	2.33	1.53
全体	2.39	1.59

○異性の前でわい談は避けるべき

	PRI	POST
男	3.80	4.00
女	3.33	3.74
全体	3.37	3.76

○エイズは性病、法的規制がなされるべき

	PRI	POST
男	2.80	2.60
女	2.34	2.28
全体	2.38	2.31

○マスターベーションは抑制されるべき

	PRI	POST
男	4.60	4.60
女	3.46	3.89
全体	3.56	3.95

○結婚したら別れるべきではない

	PRI	POST
男	3.40	3.60
女	3.35	3.65
全体	3.36	3.64

注) 数値は賛成得点の平均値

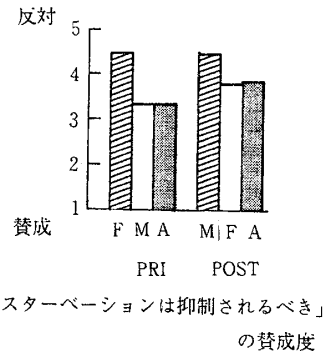
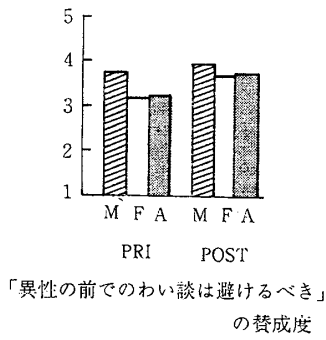
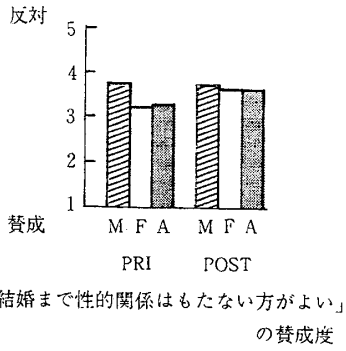
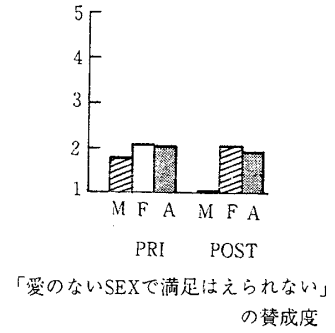
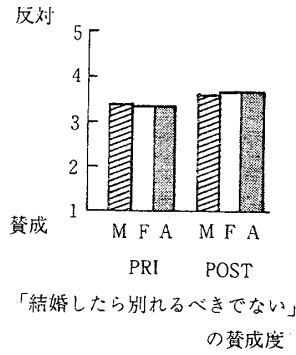
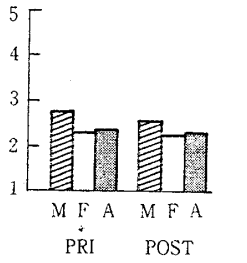
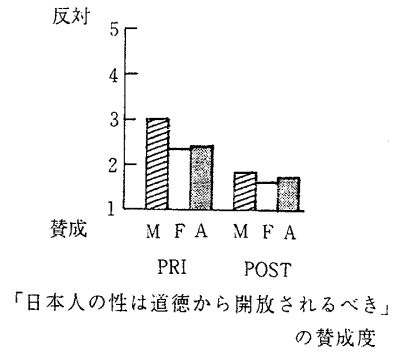
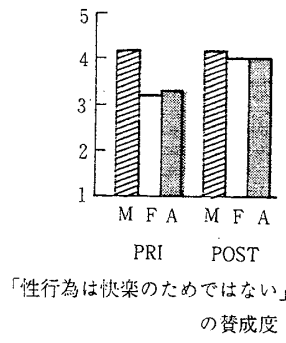
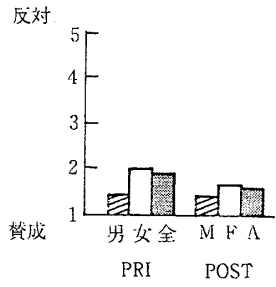


図4 性別にみた性についての意見に対する賛成度の変化

図4より、「性行為はいやらしくない」「日本人の性は道徳から開放されるべき」「エイズは性病であり、法的規制がなされるべき」「愛のないセックスで満足はえられない」の意見に対しては賛成度が増し肯定的である一方、「性行為は快樂のためではない」「結婚したら別れるべきではない」「結婚まで性的関係はもたないのがよい」「異性がいる前でのわい談は避けるべきである」「マスターベーションは抑制されるべき習慣である」の意見に対しては、賛成度が下がっており、性にたいして、今回の性に関する講義を受講することにより、より開放的に変化することがわかる。さらに詳細に男女差をみていくと、「性行為はいやらしくない」の意見に対して男性は講義前・後で賛成度の変化がみられないのに対し、女性では賛成度が増加しており、肯定的にとらえるようになっていた。「性行為は快樂のためではない」という意見に対しては、男性は、講義前から非常に賛成度が低く「性行為は快樂のためではない」という意見を否定的にとらえており、講義後も変化がなかった。これに対し、女性は講義前に比べ講義後、この意見に対する賛成度が非常に下がっており、本講義によって性の特性について意識が変化することがわかった。また、「日本人の性は道徳から開放されるべき」の意見に対しては男女共に、講義前に比べ講義後は意見を肯定する方向に変化している。さらに、「結婚したら別れるべきではない」という意見に対してはわずかではあるが男女とも否定的な意見に変化している。「愛のないセックスで満足はえられない」という意見に対しては女性に変化がないのに対し、男性は賛成度が非常に増していた。「結婚まで性的関係はもたないのがよい」「異性がいる前でのわい談は避けるべきである」「マスターベーションは抑制されるべき習慣である」のいずれも男性は、非常に賛成度が低く、講義の前後で変化がないのに対し、女性は賛成度が下がっておりこれらの意見を支持する方向から、否定的な方向へ意見が変化したことがわかる。

(3) 自信をもって性教育できる内容：

「児童・生徒に自信を持って性教育できるのはどれか」という問に対して、各項目ごとに選択された率を集計した。結果を表5に示した(図5)。

表5 児童生徒に自信を持って性教育できるもの

項目	講義前	講義後
妊娠・出産	17(28.2)	29(49.2)
避妊・中絶	14(23.7)	24(40.7)
性病	9(15.3)	3(5.1)
エイズ	5(8.5)	2(3.4)
性交	2(3.4)	18(30.5)
家族計画	13(22.0)	12(20.3)
遺伝	18(30.5)	8(13.6)
性欲	4(6.8)	9(15.3)
性道德	13(22.0)	8(13.6)
ない	26(44.1)	18(30.5)

注) 数値は各項目を選択した人数、()は選択率を示す。

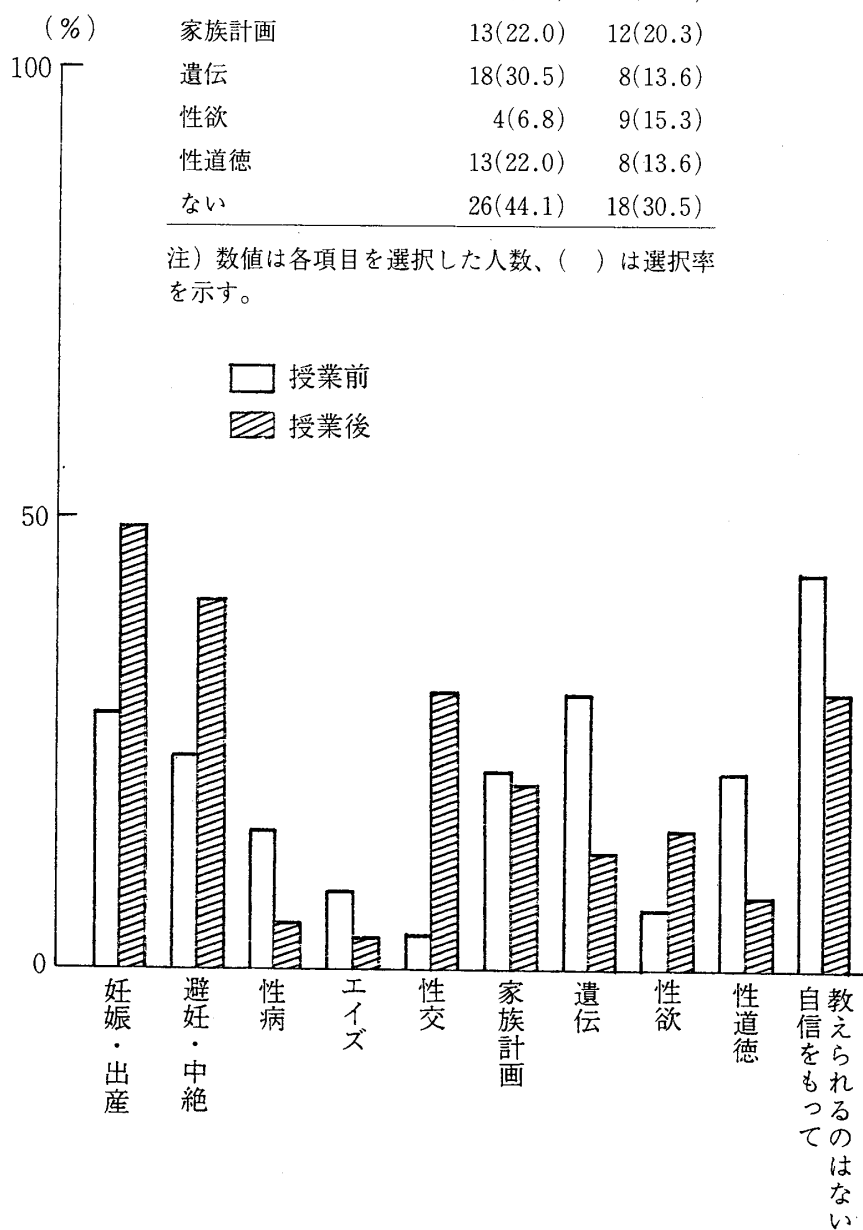


図5 授業の前後でみた「児童・生徒に自信をもって性教育できるもの」の割合

図5より、受講前最も選択率が多かったのは「自信を持って教えられないのはない」(44.1%)の項目であった。またいずれの項目も選択率が低く、特に「性交」(3.4%)「エイズ」(8.5%)「性病」(15.3%)「性欲」(6.8%)の項目に対しては、性教育することに自信がないことを示していた。受講前・後を比較すると、「自信を持って教えられないのはない」の項目が減少した(30.5%)。さらに「妊娠・出産」「避妊・中絶」「性欲」「性交」に関する項目の選択率が増加していることから、これらの項目に関して授業の効果があったことが伺える。逆に、「性病」「エイズ」「遺伝」「性道徳」の項目の選択率が減少していた。

(4) 性教育を行うにふさわしい人

「子供に対する性教育は誰が行うのが一番よいか」という問に対して、8項目の選択率を集計した。結果を表6に示した(図6)。

表6 性教育を行うのに最もふさわしい人

項目	講義前	講義後
同性の先輩・友人	1(1.8)	1(1.8)
異性の〃	1(1.8)	2(3.6)
学校の先生	10(18.2)	8(13.8)
両親	34(61.8)	39(67.2)
兄弟・姉妹	0	0
医師・保健婦	9(16.4)	11(19.0)
雑誌・テレビ・マスコミ	0	0
その他	0	0

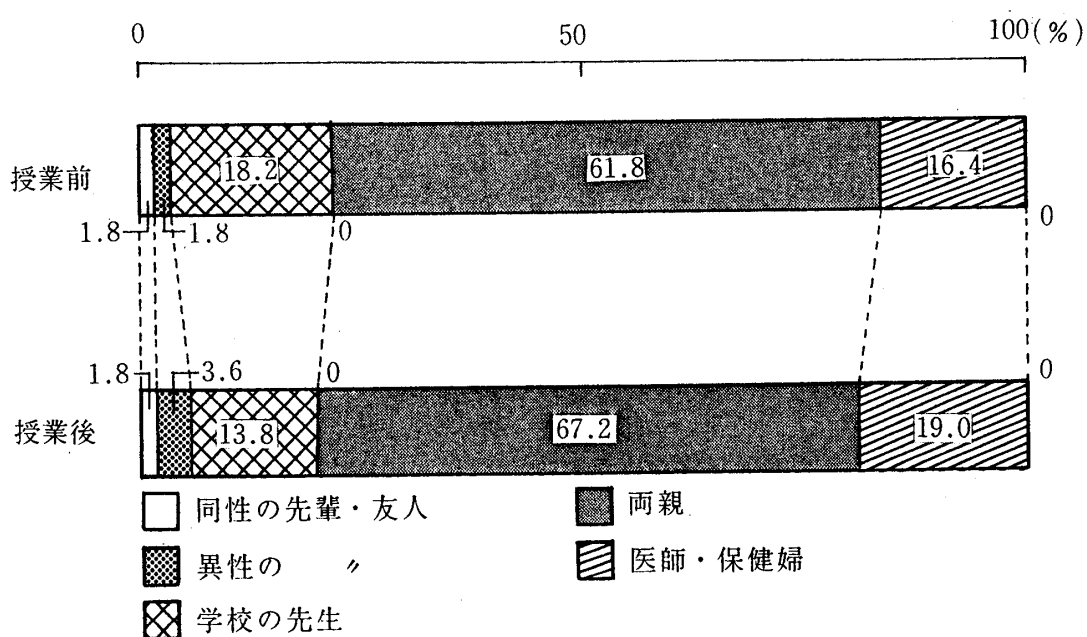


図6 授業の前後でみた「性教育を行うのに一番ふさわしい人」の選択率

図6より、最も性教育にふさわしいと思われているのは、授業前・後共に圧倒的に「両親」であることがわかる。授業前では「両親」(61.8%)に続いて、「学校の先生」(18.2%)、「医師・保健婦・助産婦」(16.4%)の順であったが、受講後は「両親」(67.2%)に続いて「医師・保健婦・助産婦」(19.0%)、「学校の先生」(13.8%)と、「性教育を行うのにふさわしい人」の順位が変わっているのがわかる。また、「兄弟・姉妹」「雑誌・テレビ・マスコミ」はまったく選択されておらず、性教育にはふさわしいと考えられていない。

②講義形態による授業の印象比較

(5) 形態別にみた授業の印象：

ラジオ番組による授業・口頭による通常形態の各講義形態ごとに、印象を集計した。講義形態ごとの、各評定項目の平均値を表7に示した。(図7)。

表7 講義形態ごとの各評定項目の平均値

	講義形態	
	ラジオ形態	通常形態
1 おもしろい－5 おもしろくない	3.64(0.95)	2.31(0.74)
1 新鮮な－5 新鮮でない	3.39(0.92)	2.76(1.15)
1 印象の深い－5 印象の薄い	3.83(0.81)	2.24(0.67)
1 積極的－5 消極的	3.61(0.78)	2.56(0.81)
1 集中しやすい－5 集中しにくい	3.98(1.05)	2.36(0.78)
1 能動的－受動的	4.10(0.84)	2.98(1.02)
1 分かりやすい－5 分かりにくい	3.59(0.92)	2.24(0.65)
1 自然な－5 不自然な	3.41(0.76)	2.39(0.61)
1 緊張した－5 弛緩した	3.75(0.75)	2.80(0.68)
1 好きな－5 嫌いな	3.85(0.82)	2.44(0.64)

注) 数値は評定の平均値、()は標準偏差を表す。

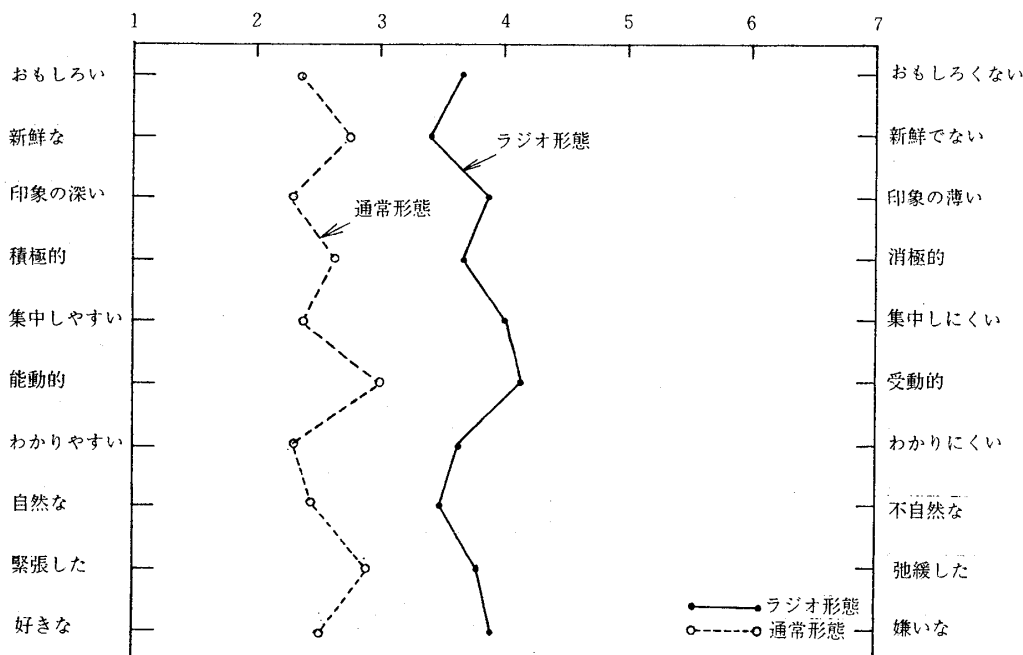


図7 講義形態ごとにみた印象得点

図7より、ラジオによる授業よりも講師の口頭による授業形態の方が「おもしろく」「新鮮」「印象深い」「積極的」「集中しやすい」「能動的」「わかりやすい」「自然」「緊張した」「好き」の方向に評価されていた。いずれも、講義形態に関しては、ラジオによる授業形態は通常形態に比較して、よりネガティブに評価されていることがわかった。

(6)a. 好ましい講義形態：

「講義形態のうちいずれの形態がよりよいか」の問に対する二者択一の回答を集計した。結果を表8に示した。

表8 好ましい講義形態

講義形態	人数(%)
ラジオ形態	2(3.4)
通常(口頭)形態	57(96.6)
計	59

表8より明らかなように、受講生の96.6%は講師の口頭による授業形態を好ましいと評価しているのに対し、ラジオ番組による授業形態を好ましいと評価した割合は3.4%であり、圧倒的にラジオ番組による授業形態より、講師の口頭による授業形態の方が「よりよい」と評価されていることが明らかとなった。

(6)b. それぞれの講義形態を好ましいと選択した理由

上記に結果を示した設問(6).aで「好ましい」と選択した講義形態に関して、その選択理由を集計した。集計は、選択の1位から3位までにそれぞれ得点を与え重みづけを行い、各理由項目の得点とした。結果を表9に示した。

表9 それぞれの講義形態を好む理由

○ラジオ形態		○通常形態	
順位	理由	順位	理由
1.	話だけのぶん内容が充実している。	1.	視覚的情報が得られる
1.	自分の考えをまとめやすい	2.	落ち着いて聞ける
3.	集中して聞ける	3.	繰り返し説明してくれる
		4.	板書を見て内容がつかめる
		5.	後で質問ができる
		6.	ノートがとりやすい

表9より、講師の口頭による授業形態が好ましいと評価した理由として最も大きなものは、「視覚的情報が得られる」ことであり、次いで「落ち着いて聞ける」「繰り返し説明してくれる」という理由であることがわかった。

3. おわりに

広島大学学校教育学部では総合講義演習の実施の際に、以前に広島大学公開講座で作成されたラジオ番組を講義の一部に導入している。

そこでこうしたラジオ番組による授業形態が受講生にどのように受けとめられているかを二つの調査から検討した。

いずれの調査結果からも、受講生はラジオ番組による授業形態に対しては否定的な態度を持っていることが判明した。

しかし、その理由を分析してみると、受講生がこうした新しい形態の授業に対する不慣れのために、こうした否定的な判断を下したとも考えられる。また、従来の授業形態に関する知見から考えると、授業形態の教育的効果の評価をする際には、今回の調査に使用したイメージ等の判断者の情緒的側面のみならず、授業内容の記憶、学習等の認知的側面からも評価する必要がある。しかしながら、今回の被調査者のほとんどがラジオ番組による授業形態に対しては否定的であったために、こうした認知的側面と授業形態との関係については明らかにできなかった。また、授業形態の教育的効果は性、年齢、性格等の学習者の個人的特性とも関連があることも知られている。大学の授業にラジオ番組による授業形態を導入すべきか否かは今回の調査で明かにできなかった種々の点について検討をし、判断する必要があるであろう。